

(参考様式5)

事業活用活性化計画目標評価報告書

計画主体名	計画主体コード	計画番号	計画期間	実施期間
宮崎県・宮崎市	450006	1	H19～H21	H19～H21
活性化計画の区域				
柿木原地区（宮崎県 宮崎市）				

1 事業活用活性化計画目標の達成状況

事業活用活性化計画目標	目標値A	実測値B	達成率(%) B/A	備考
定住等の促進に資する農業用用排水施設等の機能の確保	17ha	17ha	100%	

(コメント)

農業用施設の整備により条件整備され、機能確保された農地が17haとなり、目標を達成することができた。

2 目標の達成のために実施した各事業の内容と効果

事業メニュー名	事業内容及び事業量		事業実施主体
農業用用排水施設	農業用パイプラインの整備 L=2,498.4m		柿木原地区土地改良事業共同施行
管理主体	事業着工年度	事業竣工年度	供用開始日
柿木原地区土地改良事業共同施行組合	平成19年度	平成21年度	平成22年4月15日
事業の効果			
柿木原地区は宮崎市の北西部にある畑地帯で施設園芸や路地野菜の営農が行われており、国営大淀川左岸事業の受益地であるが、地区の多くが井戸水を水源に営農を行っており水不足対策が早急の課題であった。			
地域人口の約70%が農業従事者である本地区は、地区の活性化には如何に農地の生産性を向上させ農業所得の増加を図れるかが課題となっているため、国営事業の受益地であることのメリットを活かし、本事業にて農業用パイプラインを整備し営農条件の改善を図るに至った。			
今回、農業用パイプラインの整備により安定した農業用水の確保が可能となり、農地の生産性向上が図られたことから、今後、施設園芸の規模拡大や収入の高い作物への転換を行い農業所得を増加させたい。			

3 総合評価

(コメント)

本事業によって、農業用パイプラインL=2498.4mの整備を行い、受益面積17haの農地の生産性向上が図られたことにより、農業従事者の維持を図り、定住等の促進に資する農業用用排水施設等の機能の確保ができたことから、事業活用活性化計画目標を達成したと評価している。

今後は、施設園芸の規模拡大や収入の高い作物への転換を行い農業所得の増加を図り、地域活力を向上させ地区を活性化させる計画である。

4 第三者の意見

(コメント)

高度な用排水機能を備えた農地が計画目標どおり整備されており、安定的な農業用水の確保が可能となっていることは、高く評価できる。今後は、収益性の高い水田作物の定着を図り、高度化した土地利用が期待される。

(九州大学 大学院農学研究院 教授 福田 晋)

【記入要領】

- (1) 計画主体コード、計画番号は年度別事業実施計画に記入した番号とすること。
- (2) 「1 事業活用活性化計画目標の達成状況」のコメントには、目標が未達成となった場合は、その理由を記入すること。また、達成状況が低調である場合は実施要綱第8の2の(1)及び(2)に基づき改善計画を作成し、農林水産大臣に提出すること。
- (3) 「2 目標の達成のために実施した各事業の内容と効果」は事業メニュー毎に作成すること。また、「事業の効果」には事業の実施により発現した効果(農山漁村の活性化に関連する効果)を幅広に記入すること。